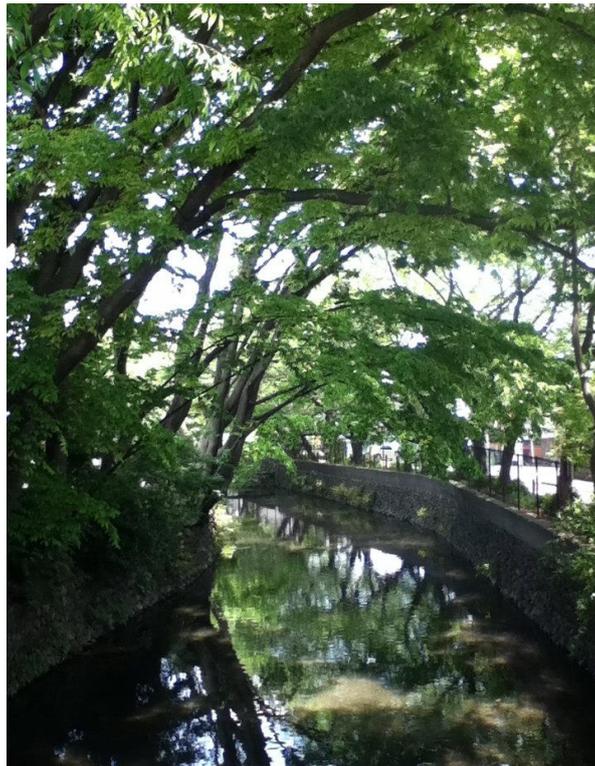


友への手紙

奈 荷

(訳 萩田麗子)



第1信 2014年4月22日

雨あがり、枝では新しい葉が次から次へと葉を広げています。毎日家を出るときには新しい驚きと喜びがあります。名も知らぬ野の草花が風の中で前後左右に揺れ動き、まるで四季の巡りに、しきりに感謝しているようです。自然界の風景以上に、人の心をたちまちのうちに浄化してくれるものはありません。

仕事というものは、実際は自分の思考の延長線上にあります。出勤退勤という時間的な拘束を受けますが、思考と心の動きが拘束されることはありません。

一定の年齢に至ると、おのずと自分のことが理解できてきます。「一粒の米、一滴の水を飲むことさえ前世において決められている。仕事をするときには自分の今持っている正のエレルギーを活かして事にあたり、疲れたときやマイナス思考が出てきたときには休息を取ることがいちばんいい。」これがおそらく天人合一①の思想の正しい現われなのでしょう。

国立北京中医大学日本校での過程は3年で、私の目標は順調に試験に合格し、順調に卒業することです。

あまり多くを考えないでいいとき、心は穏やかで気持ちは落ち着いています。

私は冬がだんだん夏に向かっていく四月と五月の季節が好きです。暖かくて潤いのある季節。「潤物細無声②」の季節。

① 天人合一（天地人合一）とは人間は天地自然と感応して存在するものであるという古代中国人の思想。この思想と陰陽五行説が結びつき中国医学を完成させた。

② 杜甫(712-770)の詩「春夜喜雨」より。好雨知時節，当春乃發生，隨風潛入夜，潤物細無聲（好雨時節を知り、春にあたって乃ち發生す。風に随って潜かに夜に入り、物を潤して細やかにして声無し）

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

◆ 好雨知時節 當春乃發生 ◆

◆ 隨風潛入夜 潤物細無聲 ◆

◆ 野徑雲俱黑 江船火獨明 ◆

◆ 曉看紅濕處 花重錦官城 ◆

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

第2信 2014年5月1日

昨夜は一晚激しい風と雨で、私は朝早く自転車に乗って、街の大通りや路地を走りました。遠くの木々も近くの草も、泣いたばかりの目のように光っていてきれいでした。

中国では陰暦でちょうど清明節のころです。一日じゅう、「風は吹き草は動く、虫は吟じ鳥は鳴く」といった自然界に関心を持たずにはられません。それで、私はひとたび腰を下ろすや文字に相對して、この自然界の細やかに変化する景色を、筆の流れのままに書いているのです。

十三歳あるいは十四歳ごろから四十歳になる前まで、私は自分の心の動きや考えたことを、いつも夜通しかけて書いたものです。もちろん読者などいません。自分が自分の読者だったのです。

四十歳を過ぎると、せつせと考える書くことよりも、自然と浮かんできたことを書くことのほうが多くなりました。それでいまは、美文を書くことが難しくなっていると感じています。

しかし、年齢を重ねるということは思考に明るさをもたらす、文字はしだいに思考の後ろに退いていくのではないかと、私は信じています。



(中国語原文)

给朋友写的信

奈荷

第1信 2014年4月22日

下过雨后的新叶次第舒展于枝条。每天出门都有新的惊喜。不知名的野花野草在风中摇摆，仿佛在频频感恩四季的周而复始。没有什么比自然界的风景更令人快速地净化自己的心情了。

工作其实是自己思考的一种延伸。虽然上班下班，在时间上受拘束。但思

维与心情是不受拘束的。

人到了一定的年龄,自然而然地了解自己,人的一啄一饮,莫非前定。在工作时,有多少正能量就周转多少。这大约就是天人合一的思想的正常现象吧。

国立北京中医药大学日本分校的课程是3年,我的目标是顺利通过考试顺利毕业。没有太多想法的时候,人就心平气和了。

我喜欢冬天渐渐转向夏天的四五月的季节。温和滋润的季节。润物细无声的季节。

第2信 2014年5月1日

昨晚一夜的狂风骤雨,今早我骑自行车穿过大街小巷,远树近草,像刚刚哭过的眼睛一样明亮而且干净。在中国的农历,这个季节正是清明(时节←重复、削除)时分。

一日四时,似乎都不能无视自然界的风吹草动,虫吟鸟鸣。所以,一旦我坐下来,面对文字,这些微机可候的风景就会随着我的笔端汨汨流淌。

大约在十三四岁到四十岁之前,常常需要整夜整夜地记述自己的心情与思考。当然没有读者,自己是自己的读者。

四十岁以后,更多的是用无思考来代替有思考。现在很难有美文美句了。但我相信,加龄使思想更有光华,而文字将逐渐引退到思想的背后。

